

はーもにい

Harmony

南相馬市

「はーもにい」には、「調和」や「和音」という意味があります。男女がお互いに尊重し、支え合い、仕事と家庭のよりよいバランスを考えていくことによって、より心地よくもっと心に響くハーモニーを奏でられたら……そんな願いをこめて本紙に名付けました。



主な内容

CONTENTS

■イクメン特集

- 親も子もいっしょに楽しもう！
- 働くお父さんの家事・育児
- プチインタビュー イクメン・カジメンなパパ

■「いつまでも2人で仲良く元気よく！」インタビュー

■子育て応援基金助成団体紹介 よこてっ子くらぶ

■男女共同参画公開授業 南相馬市立八沢小学校

第3号

2011年春号

イクメン+カジメン特集

子育てに積極的な男性が増えてきました。育児に積極的に関わり楽しむ男性のことを「イクメン」と呼び、2010年の流行語にもなりました。

そこで身近なイクメンを紹介し、男性の育児・子育てについて考えてみたいと思います。

イクメンとは？
「育児に積極的に関わり楽しむ男性」
カジメンとは
「家事に積極的な男性」



厚生労働省では男性の子育て参加や育児休業取得の促進などを目的とした「イクメンプロジェクト」が始動されています。

詳しくは下記をチェック!!

<http://www.ikumen-project.jp/>

親も子もいっしょに楽しもう!



M さん

(原町区在住43歳)
会社員 3児の父

T さん

(原町区在住34歳)
会社員 3児の父

お二人のイクメンに、どんな子育てをしているのか、お話を伺いました。

お二人は、ご近所同士、同じ年齢(10歳)のお子さんがいるというきっかけで、以前から数家族のグループで家族ぐるみのお付き合いをされている方たちです。“親も子も一緒に楽しもう!”と年に2~3回は皆さんで集まってバーベキューをしたり、ホームパーティを開いたりとても仲の良い素敵なお父さんたちです。

いつも、お子さんとどんな関わり方を

Mさん：私は土日が休みなので、それを生かして子ども達と関わりたいと思って努力しています。必ずお風呂に一緒に入るようにして、コミュニケーションをとるようにしています。子どもたちも、父親にしか言えないこと、母親にしか言えないこと、というように分けているようなんです。

Tさん：私の場合は一言で言うと、“共に学び、共に遊び、共に寝る!!”この3つは全部切っても切れない関係だと思ってますから、必ずセットでやるように努力しています(笑)。何ていうか…その子の個性を伸ばしてやりたい、成長させてやりたいって思ってるんです。将来のビジョンまで描いちゃう(笑)。

(Tさんのお子さんに) お父さんと一緒にやることで何が一番楽しい?

子：一番楽しいのは一緒にどこかに遊びに行くこと!! いろんなところに連れて行ってくれる。お出かけすること自体が楽しい!

育児(イクメン)デビューはいつ頃

Mさん：子どもが小さい頃は、私たち夫妻と子どもの核家族。しかも共働きでお互いの休日も合わないという状況だったので、必然的に“妻がいないときはやらなきゃ!”という感じで…。幸い長男はおとなしい子だったので助かりました(笑)。



プチインタビュー! イクメン・カジメンなパパ



40代

幼稚園のお迎えはほとんどしています。普段もお風呂はパパの仕事、乳幼児健診にもよく連れて行ったな~。



54歳 子3人

土日の食事の用意は全部しています。掃除、洗濯も日常的に行ってます。家事割合は妻：夫=3：7かな。



30歳 子3人

妻が第3子を出産後、一週間休暇を取って、子ども達の世話をしました。職場には早めに申し出ておいたので問題なかったです。

Tさん：長男が4歳になった頃、“(その時が)キタかも!?”って思いましたね。それまでは、仕事が忙しくて、なかなか関わってあげられませんでした。

お二人とも立会い出産を経験されているとか

Mさん：出産が2日もかかって、しかも妻の不安もピークに達して…。それでも自然分娩にこだわって無事生まれたときは、本当にホッとしました。終わったときは体重が2kgも減ってましたね。

すごく疲れましたが、生まれてすぐの写真も撮れたし、何より嬉しかった!

Tさん：当時は周りもそんな風潮でしたよね。私の場合は“感動!!”この一言に尽きます。めったに言えないこの言葉をあえて使いたいという気持ちです。

これからむずかしい年頃にさしかかるお子さんとの関わりはどう考えていますか

Mさん：大きくなると、だんだん会話も少なくなってくるだろうと思うので、なるべく会話をして、スキンシップをとり続けていきたいと思ってます。あんまり難しいことは考えないかな(笑)。

Tさん：よく「うちの子は勉強ができなくて(やらなくて)困った」という話を聞きますけど、そのセリフを聞くたびに、自分は疑問に思うんです。“あなたは自分の学ぶ姿を見せていますか?”って…。願望があるなら、まず自分から態度で示すべきではないかと…。私はその考えをぶれずに実行していきたいと思ってます。学びは遊びにもつながると思うんですよね。

ところで家事・料理、掃除等は どうでしょうか

Mさん：私は休みの日曜日を利用して、夕食を作る努力をしている最中です。子ども達

に“おいしい!”って言ってもらえて、すごく嬉しかったので、それを励みにまた次もがんばろうと思って作ります。買い物もなるべく妻と一緒にいくようにしています。

Tさん：0%!!(笑・笑・笑)(Tさんのお子さんも認めてました)10年後ぐらいには、料理もできないとまずい…と考えてはいるんですが…。もしやるとしたら、やっぱり子どもも道連れですね(笑)。

Mさん：私は掃除も担当します。ただ、あんまりやりすぎると妻に嫌がられる(笑)。特に年に2回やっている大掃除は、自分が仕切ります。

最後にお二人は育児に意識して関わろうとしていますか?

Mさん：普段から必然的にやっていることなので…いわば自然体ですね。アタマでは考えてません。

Tさん：意識してやっています。私はMさんと逆にそうじゃないとできないですね。



今回お二人のお話を伺ってそれぞれの生活環境や家族構成によっても子育てに対する考え方の違いが大きく現れてくるものだと思います。ただ、お二人に共通していることは、“自ら進んで関わろうとする”姿勢だと実感しました。

イクメンの方もそうでない方も、同じような子育て中のお父さんの様子を見たり、聞いたりしてみるのも刺激になると思います。自分にあったやり方、ご家庭にあったバランスで少しずつ始めてみるのもいいかもしれませんね。



30代

妻が出産直後!もっと子どもと触れ合う機会をつくりたいと思って子育てサークルに参加しました。家事は休日に食事づくりもします。



30代 子4ヶ月

お風呂は毎日入れています。家事は、独身時代には全部自分でしていたけど結婚してからは妻に任せきりだな～。



30代 子4ヶ月

子どもが生まれる前から家事育児を分担してやっています。子どものお風呂、夜の寝かしつけ、おむつ交換等はお父さん中心です。

働くお父さんの家事・育児

中島 浩秋さん

葵産業(株)勤務

28歳 6人家族

妻と2歳の長女、
両親、妹と同居

両親と同居、妻は働いています。家事・育児は、両親がほとんどを担っています。

私と妻の家事・育児の割合は、半々です。普段から、そうじや食事の洗い物や洗濯などはしています。もちろん子どもをお風呂に入れています。共働きなので、出来る限りお互い協力しあって家事・育児をしています。



齋藤 洋一さん

(株)セントラル住設勤務

33歳 6人家族

妻と女の子4人(4,3,1,0歳)

妻にほとんど家事も育児もがんばってもらっています。ですが、仕事が休みの日には、自分ができることを協力して育児をしています。

子ども達には自分で出来ることは出来るだけやらせるようにしています。まだ小さいので出来ないことを親が手助けするようにしています。

私は、会社の役員なので自分が率先して育児をすることで、ほかの従業員にも育児のための休暇が取りやすい環境をと考えてます。

村田 正隆さん

(有)住宅情報社勤務

44歳 4人家族

妻、長女8歳、次女5歳

早く帰宅したときや休日などは、私と子どもが料理をします。子どもたちと料理の本を見ながら何を作るか一緒に考えて、子どもたちが主体となって料理をします。私は、手助けするぐらいにしています。できた料理を家族みんなで「すごくおいしい」とか「ここを工夫するともっとおいしくなる」とかいろいろ話がでて、それが楽しいですね。家事・育児は、自分ができることから始めていきたいですね。

私たちは、自営業なので夫婦の役割やバランスを考えて、家事・育児を分担しています。



食器洗い、子どもの世話等、妻の体があまり丈夫でないためできるだけやってます。仕事をしてようとしてまいと、家庭のことは男もできる限りやるべき!



40代 子1人



30代 子2人

夕飯の準備(帰宅が早いとき)、お風呂掃除、トイレ掃除、子どもの寝る準備等。4世代同居なので妻が大変な思いをしなくていいよう、できるだけやるようにしています。



30代

仕事が休みのときの幼稚園の送迎はいつもしてるな〜。妻を家事から解放して、子どもとの時間をつくってあげたいと思っているので、掃除、洗濯、何でもこなします!

「いつまでも2人で仲良く元気よく！」



夫 鈴木 弘俊 さん 70代
妻 鈴木 時子 さん 60代
(原町区在住)

南相馬市のご当地体操「波乗り体操」の普及活動に参加されているご夫妻にお話を伺いました。



かつては三世帯同居で大家族だったお2人。弘俊さんはバリバリの仕事人間！と同時に教育熱心な父親、時子さんは専業主婦でした。今はお互いを気遣いながら、地域のいろいろな活動に参加されています。

Q. 健康運動普及サポーター（元気モリモリ！もりあげ隊）に参加したきっかけは？

市の広報を見て、2人で申込みしました。

時子さんはもともと体を動かすことが大好きなため、弘俊さんをご自分の健康増進の為に…と考えたそうです。

Q. (弘俊さんに)「元気モリモリ！もりあげ隊」って女性が多いですよね？

女性が多い中に入っていくのには少しは抵抗がありましたが、これからは男性もどんどん参加することが大切だと思います。家にこもりがちになってはいけませんし、何より妻が一緒なので心強いです。

Q. 他に活動されているものはありますか？

(時子さん)「地域サロン」を立ち上げました。地域の高齢者のいこいの場として、区長さんや老人会長さん、地域の方たちの後押しで始めました。

もちろん弘俊さんもサロンの一員として参加し時子さんをサポートしています。

Q. これからの抱負は？

地域とのつながりを大切にしていきたいですね。これからも向上心を持っていろいろなことにチャレンジしたい。もちろん健康に気をつけて！です。遠くに住んでいる孫にもずっと元気でいて会いにいきたいです。

Q. 参加されて良かったと思うことは何ですか？

友達が増えました。研修会や普及活動の場でいろいろな方と知り合い、お話できるのが楽しいです。



ところで、「波乗り体操」ってご存知ですか？これは、だれでも楽しく簡単にできるオリジナルの体操です。そしてこの体操の考案者で普及活動にがんばっている人たちが「元気モリモリ！もりあげ隊」の皆さんです。

Q. ご夫妻仲良しの秘訣は？

私たちは「健康」と「自立」についていつも考えています。お互いの信条や目標が同じであることが一番の理由かもしれませんね。

取材を終えて

終始、笑顔が絶えず和やかな雰囲気でお話を伺うことができました。マラソンやスイミングなど何事にも活動的な時子さん、その妻の傍らでニコニコしながら「オレはついていだけ…」と語る弘俊さん。どんな活動にもお2人で参加し、お互いを思いあい支えあっている素敵なお夫妻でした。

応援します！地域ではぐくむ子育て

子育て応援基金助成団体紹介 「よこてっ子くらぶ」

「よこてっ子くらぶ」は、地域の子どもは地域で見守りたい、また、少しでもテレビやゲームから離れて体を動かして遊ぶ機会を持たせたいという思いから、地域の集会施設を利用して、放課後、子ども達が集まり、安心して遊ぶことができる居場所として活動しています。また、平成21年9月より子育て応援基金の助成を受けております。

現在、毎週火曜日 14:30～17:00 まで、鹿島区の横手地区に住む幼稚園児から小学6年生まで16人が参加しています。

お寺での講話やおやつ作り、リトミック、絵本の読み聞かせ、英語で遊ぼう、折り紙、老人会との交流等さまざまな活動をしています。活動する中で、年上の子が年下の子に教え諭す姿が見られるなど、異年齢の子ども達の集団の中でのさまざまな成長ぶりには関心させられるそうです。

今後は地域の皆さんの趣味や特技等を活かして、今まで以上に足を運んでいただき、さらに活動を盛り上げていきたいということです。そして子ども達が大きくなったとき、あんな遊び場があったなあ、楽しかったなあと懐かしく思い出してもらえたらいいなあという願いを持って、先生方は見守ってくださっているようです。



「みんなで築こう男女共同参画社会」～平成22年度公開授業が行われました～



▲公開授業の様子

「みんなで仲良くするには？」

言われると傷つくククク言葉、言われてうれしいふわふわ言葉をみんなで出し合ってます。

福島県教育委員会では、男女共同参画社会の推進のため、保護者や地域の人々にも理解を深めてもらおうと、県内5地区の小・中・高等学校において公開授業を行いました。

南相馬市立八沢小学校では、昨年11月に実施され「みんななかよし」と題した3年生の学級活動の授業が公開されました。男女という性差にとらわれず、人として互いに尊重し、ともに生きていくためには、どのように他者と関わる事が大切であるかを、3年生の発達段階に応じて考えさせていくことをねらいとした授業でした。

この情報紙は、南相馬市男女共同参画計画推進委員会の情報紙部会の委員が企画・編集しました。

編集後記

●「は～もにい」第3号いかがでしたでしょうか。イクメンの特集では、お父さん方の協力的な姿勢・考え方に感心されました。男性だけががんばるのではなく、女性だけががんばるのでもなく、その人、その夫婦、その環境にあった選択が可能な社会が望まれているのかなあと、様々な取材を通して感じました。快く取材にご協力くださいました皆さん、本当にありがとうございました。（増田）

「は～もにい」への意見・感想などをお寄せください。また、男女共同参画で頑張っている方、職場の情報などをお寄せください。

発行：南相馬市健康福祉部男女共同こども課 〒975-8686 南相馬市原町区本町2-27
TEL / 0244-24-5215 FAX / 0244-24-5740
ホームページ <http://www.city.minamisoma.lg.jp/>